令和6年度組織目標 知事協議概要

部　局　名	健康医療福祉部
日　　時	令和６年(2024年)４月19日（金）　13:50～14:50
場　　所	特別会議室
出　席　者	知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 部長、次長、次長（兼医療政策課長）、管理監（医療福祉拠点整備担当）、健康福祉政策課長、健康危機管理課長、健康しが推進課長、医療福祉推進課長、障害福祉課長、薬務課長、生活衛生課長、医療保険課長

発言者	発言概要
総務部長	看護師の年間就業者数について、300人増が目標で現在290人とのことだが、増やすための施策を教えていただきたい。
次長（医療政策課長）	滋賀県で育成して、定着していただくことがセットと考えている。今年度新たな取組として、看護の地域枠制度を３大学に各10名設けたところ。この30名を中心に学生の間からリーダー的な看護師の役割を勉強していただき、県内に定着して、広げていただくことで県内の看護の資質向上に寄与できると考えている。
知事公室長	能登地震を踏まえた対応、受援応援計画を考えている。南海トラフ等、広域的な災害が起きて、滋賀県に相当な被害が出ている中、どのように受援や応援を受けるのか、どこで完結させるのかなど考えているところであるが、健康医療福祉部で検討している方向あれば教えてほしい。見直しにあたっては防災と一緒にやっていかないといけないところもある。新型インフルの行動計画の策定も一緒にやっていきたいのでよろしくお願いしたい。
健康危機管理課長	各圏域の災害拠点病院が核になるが、耐えられるのは３日間程度なのでそれ以上は資源も必要となってくる。昨年度から防災部局とは一緒に訓練や新型インフル行動計画改定に取り組んでおり、引き続きよろしくお願いしたい。
総合企画部長	介護人材不足については、今後もっと進んでいくと思う。聞いた話では、韓国や中国も足りておらず、ベトナムにはたくさんおられるとのこと。個別にアプローチできればいいと思うが、戦略的に取り組んでいこうという感じはあるのか。健康しがについて、国スポ障スポとはどのような形で連携するのか。
医療福祉推進課長	介護人材について、海外との競争は相当厳しいと言われている。韓国は就労制限が日本よりも緩く、オーストラリアやニュージーランドは給料が全然違うという状況で、日本は選ばれにくくなっていると聞いている。その中で、どうやっていくのか。お金があれば一番いいが難しいので、委託事業の中で来ていただいた後の仕事や生活面でのフォローアップに重点的に取り組んでいるが、これまでと違う取り組みを考えないとこのままでは沈んでいくのではないかという実感を持っている。
健康しが推進課長	国スポ・障スポとの連携については、当然一緒に考えていくということで、レガシーの会議等にも出席しているところ。国スポ・障スポ大会局も全庁的に取り組まれているので、あらゆる分野と関わっていきたいと考えている。
大杉副知事	健康医療福祉部として県庁の福祉を担う人材の育成に取り組んでいただきたい。これからの福祉のあり方を主体的に考えてデザインして提言していける、国も含めて特定の誰かがやるものに従うということではなく、組織としてしっかり、しかも継続してやっていける組織づくりもあわせてお願いしたい。病院事業庁にもお願いしたが、長浜の病院再編の関係では、議論の語り口を地元目線に変換したり、欠けている視点をしっかり入れるといった役割を果たしていただけたらと思う。
大杉副知事	健康危機管理体制、南海トラフを見据えどのような課題があるのかについては、また教えていただきたい。
大杉副知事	健康しがについては、あらゆる分野との連携はありがたいが、イベント等は精選していってほしい。一過性のイベントではなく、行動につながるようなDXの活用等に振り向けてほしい。
次長	県職員の人材育成について、以前だと現場との知恵の出し合いの中で制度化してきており、県職員も関わってきたというのが福祉滋賀と言われる一つの原動力となっていた。そのおかげで制度化されてきた反面、国の制度に乗っかって業務を遂行することに注力されていて、狭間の部分をどう解決していくか、どういう施策を打っていくかといった視点を持つ職員が少なくなってきている。若い職員にも現場を見てもらって経験してもらい、施策につなげていけるようなことを考えていきたい。
次長（医療政策課長）	長浜の病院再編については、地域住民のことを考えていくことが大切と考えている。各病院の思いを聞かせていただくことと並行して地域のあり方や地域の実情に応じた住民の安全安心を最大の大事なポイントとして、今年度足を運んで、現場の声を聞きに行って寄り添っていきたい。
健康危機管理課長	南海トラフに対して、県として災害医療分野でしっかり取り組んでいくことは必要だが限界もある。組織目標の一つにリスクコミュニケーションの推進をあげているが、県民の方が行動されることはコロナの時もそうであったが、大きな力になるので、地道に進めていきたい。
健康しが推進課長	イベントについては重複感であったり、過去から継続的にやっているものもあるので、精査できるものは精査し、しっかり固まりで見せていけるようにしていきたいと思う。
江島副知事	医療福祉人材については、量の確保もそうだが質を高めることが重要。集まることによって濃くなって質が上がっていくというのは一つの大きな効果だと思っている。単に集まるだけではなくそこから生まれてくるものを大事にしたい。
江島副知事	国スポレガシーづくりについて、持っているアイデアや、考えているものがあれば教えてほしい。

江島副知事	病院事業庁は経営状態が非常に良くなく、模索されているところ。健康医療福祉部も支えてあげることが必要と考えている。病院事業庁からは災害拠点病院になることによる診療報酬のアップが大きな課題と聞いているが、方向性が聞かせていただければありがたい。
管理監（医療福祉拠点整備担当）	医療福祉連携のネットワークのところはまだまだこれからだが、既にいろんな枠組みが民間の中にもあるので、屋上屋を重ねるのではなく、見直すべくは見直し、みんなで一つの大きな目標意識、例えば災害時に限ってしっかり連携できるといったわかりやすいところも含めて具体化をしていきたい。対話をしっかりしていきたい。
健康しが推進課長	レガシーはモノだけでなく、その精神や機運も含まれると思う。特に、若い方で健康で困っていない方も年を重ねていく中で不具合が出てくるかもしれない。若者に自分事として考えてもらえるような仕組みづくりにトライしていかないといけないと考えている。
障害福祉課長	大会の成功があってはじめてレガシーに残っていく。当事者から両方の開閉会式に参加したいとの声をいただいている。従前から障害のある方数百人に集まっていただき、糸賀音楽祭に向けてシャインの手話の練習をしているが、開閉会式で１万人くらいで手話で踊ったら面白いのではないかと国スポ・障スポ大会局には伝えている。 福祉の先進県づくりでは、福祉の若者の連携を深めていくことが良いと考え、２か月に１回くらい勉強会を実施している。20代の方中心に50人程集まっていただいており、引き続きやっていきたい。
健康危機管理課長	災害拠点病院の指定要件の中でヘリポート等、ハードの部分はクリアしている。一番の課題はDMATのチームであり、国の養成研修の受講が必要だが、国研修が一杯でなかなか受講できない状況。昨年度国に要望し、厚生労働省が特別枠ををつくった。意気込みのある人が公募で受けられることとなったので、県立総合病院には積極的に応募してはどうかと伝えている。 災害拠点病院の指定に伴う収益増というよりも、スタッフの意識が変わるという効果が大きいのではないかと思う。
江島副知事	手話できる方が増えるというのもレガシーだと思うのでぜひ取り組んでほしい。 若い人もそうだが、健康寿命を延ばすいいタイミングかという気がする。大会後、健康寿命が延びたというのもレガシーだと思うし、若い年齢層にどういったことができるか考えていただければありがたい。
知事	若者と言っても幅広い。
健康しが推進課長	想定しているのは大学生がメインのターゲットになってくると思う。
知事	中高年齢層も入れてほしい
知事	国スポ・障スポ、万博があるので、来年、再来年までもう一段、健康医療福祉部の仕事を強化する年になると思うし、しなければならないし、したいなと思うが、みんなが思わないとならないので思いを共有できたらいいなと思う。 戦後80年は大事な取組。県レベルでここまでずっと行くところはあまりないと思うので、滋賀らしくすすめたい。
知事	医療福祉の人材については、キャリアプラン・ライフプランをみんなで応援する仕組みをつくって、滋賀で医師・看護師になる、福祉の仕事に携わることの魅力を訴求できるといい。他府県、他の職種との取り合いでもあり、知恵の絞りどころだと思う。
知事	健康危機管理課はカナリアになってほしい、奴隷になってほしい。今回の紅麹もそうだが、一番に察知するのは健康危機管理課。こういう感度を一緒に高めていこう。
知事	健康しがはマンネリ化してきていると感じる。BIWA-TEKUアプリやウェアラブルをもっと使ってデータを集め滋賀大データサイエンス学部と一緒に分析して、健康しがの今日的な位置を確認したい。
知事	例えばシステムを共有する、教育を一緒にする、足りなかったら融通しあう、１法人では難しい業務改善をサポートできる滋賀の仕組みを作りませんか。尿が出てるといった見守りはICやロボットでいいと思うので、初期投資の支援をしてほしいなど、法人がものすごく危機感を感じているので、そういう視点で考えるとどんなことができるのかなと思う。
知事	障害福祉のショートステイについて、「実家みたいな」はいい表現だと思う。実家から離れている人も多くいるので、そういう人に寄り添える温かい仕組みを一緒に作っていこう。
知事	県内の製薬企業等への技術支援・人材育成について、滋賀の製薬力は化粧品を含めてすごく強い。ここにフォーカスすると滋賀の魅力にもつながると思うので、打ち出しを頑張っていきましょう。
知事	伊藤忠商事の新入社員研修で、「ねこ、わんこ、びわこ」のネーミングをもらってきた。このキャンペーンをしよう。「ペットと暮らせるまち宣言をしたらどうですか」言ってくれたので、「やります。」と言って帰ってきた。第３次動物管理推進計画の一つの目玉にしたらどうか。
知事	国民健康保険の保険料統一の準備はいよいよ大事な時期に入っている。今後、この国民健康保険の財政をどうするか。首長会議で介護保険の財政も提起されたが、まず国民健康保険料を統一してその次にまたやるべきことが控えている気がするので、国の課題でもあるが、そういう視点でしっかりとやっていこう。
生活衛生課長	長浜で動物の命や適正飼育についてのイベントを２年続けており、今年度も草津のイオンや動物保護管理センターでイベントを予定しているところ。そういった中で、県民の意見を募って２、３年前に「いぬ・ねこ・にんげん・しあわせフェスタ」というキャッチフレーズで始めている部分があるので、「ねこ　わんこ　びわこ」については今後考えるということで、今年度は「いぬ・ねこ・にんげん・しあわせフェスタ」で進められないかなと考えているところ。
知事	「いぬ・ねこ・にんげん・しあわせフェスタ」はいい名前だと思っているので、これはこれでやったらいいと思うが、「ねこ　わんこ　びわこ」もどこかで使ってほしい。
大杉副知事	住宅のあり方やまちづくりなどもっと広い概念だと思う。
知事	「ペットと暮らせるまち滋賀」宣言をどこかでしよう。
次長	おそらくまちづくりとかそういうものも全部絡めてやらないといけない話であり、他部局とのコラボが必要だと思う。
次長（医療政策課長）	それぞれの所属で医療福祉人材の確保に努めているが、一度集めてどういう課題があるのか、どういう取組をしているのか、所属を超えて進めていけるようにグリップします。

知事	そこにアクティブシニアの活躍があっていいし、外国人材がどうなっているのかも点検しないといけない。
部長	４月１日から部としてやるべきことができているか、目の前だけになってないかという話をしている。財源も人も限られているので、優先順位をつけて動き出そうという話をしている。やる気だけでは動かない、視点と視野を高めて仕事をしないとこじんまりするので、引っ張っていきたいと思う。